

海原純子 東京・銀座“Swing”, 1月26日(日)



撮影:渡部麻里子

■ **Set List** 1st: ①フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン ②エヴリシング・ハプンズ・トゥ・ミー ③エンブレイサブル・ユー ④オ・コント・ダス・ヌヴェンス(雲の物語) ⑤降っても晴れても ⑥オーディナリー・フール ⑦アイ・ガット・リズム

■ **Personnel** 海原純子(vo), スティーブ・サックス(sax), 若井優也(p), 安カ川大樹(b), 海野俊輔(ds)



二拍子,三拍子そろう海原純子は曲の解釈力に秀で,英語力に長じるから安定感が抜群だ

海原純子は医学博士, 心療内科医という本業を持っている。従ってジャズ・シンガーとしてはアマチュアと分類されることがあるが, プロ顔負けのキャリア, 実績そして実力を持っている。レコード・デビューもしているし, 出演場所も格落ちのクラブなどではなく高級ホテルのディナー・ショウや六本木“alfie”, 銀座“No Bird”など一流どころだ。そもそも医学生時代にジャズ・クラブのオーディションに合格し, 慈恵医大に通いながらクラブの専属歌手になって学費を捻出したというから年季が入っている。

海原の1stアルバム『ロンド』の発売記念ライブが行われた。会場は銀座“Swing”。客席は開演前から満席となり祝賀ムードが一杯だ。聴衆の中には遠方や海外からの客もいる。

インストゥルメンタルに続き, ①のイ

ントロに乗って現れた海原はラメ入りの黒いドレスにファーという装い。低音とウィスパーを使い分けセカンド・コーラスではフェイクも披露する。最後の「In other words I love you」まで夜会の楽しさという雰囲気が決める。終始笑顔を湛え歌詞に合わせた仕草も自然。ここまで堂に入ったエンターテイナー振りはなかなか出来ることではない。メンバー紹介に続く②は詞の解釈が勝負所。流石に海原は主人公の踏んだり蹴ったりの人生の心理を読んで自嘲気分を出している。控えめだが若井のピアノがとても綺麗な。③は愛猫を抱きしめたいなどのジョークをまじえて曲紹介。なんと3/4で歌うが詞の当て方やリエゾンが巧いから自然に聴こえる。英語が堪能人なのだ。④は新作に吹き込んだオリジナル。海原の作詞を若井がポルトガル語に訳してスティー

ブ・サックスが作曲。「雲の物語」と邦題が付けられた品のよい曲で変化する水の百態を人生に擬えた内容。海原の歌は静的だがそれだけに深い情感が伝わる。⑤は派手なサンバ調2ビートに拍手喝采。⑥も海原の英語発音の良さが際立つ。総じて言えることだが, 語尾まではっきりと歌うから彼女の歌は聴きやすいのだ。1stセット最後の⑦はスキットもまじえて軽快に飛ばして締める。

伴奏陣は若井を中心に安カ川, 海野が柔軟且つ繊細なリズム・サポート。そしてサックスの歌心あふれるオブリガートが海原の歌にふくよかさを与えた。録音と同じ一線級のジャズメンを集められるのも彼女の実力によるものだろう。知性, 音楽, 美貌と三拍子そろう女性の歌は聴いていて気持ちのよいものだ。

(小針俊郎)